

ニ曰ク「記意法」ニ曰ク「書物講習法」ニ曰ク「實物研究法」四ニ曰ク「試驗
及ヒ勞作法」コレナリ。此四法ハ孰レモ皆特ニ之ヲ主張スル者アリテ、
孰レモ皆世ノ是認ヲ促セリ。前ノ二法ハ疾ヨリ教育世界ヲ占領スル
ノ利アリ、又後ノ二法ハ新出ノ思想ヲ採用スルノ功アリ。

◎記憶法

凡ソ洋ノ東西ヲ問ハズ、國漸ク開明ノ域ニ進ミ、學校ヲ
立テ、教訓ヲ施スノ制度ヲ定ムルニ至ルトキハ、先ツ初メハ人民ヲシ
テ古代ノ聖人君子ノ討究及ヒ審思ニ就キ經驗シタル所ノ結果ヲ知ラ
シムルニ力ヲ用弁ルコト古今ノ常式ナルニ似タリ。通例此道ニ出ツル
知識ヲ約節シテ金言若シクハ俚諺ノ体裁ニ述ベ、之ヲ以テ教育ノ基本
ノ最モ善良ナル者トセリ、而シテ其金言タリ諺言タル字句言語ヲ記憶
ニ委スルヲ以テ、智慧ヲ得ル善良方策ノ殆ト外ニ匹儔無キ者トセリ。

支那ノ學校

支那ニ於テハ、甚タ古キ昔ヨリ、件ノ教育統系ヲ實施
シ、孔子以前ノ時代ヨリ、之ヲ傳ヘテ今日ニ至レリ。國中學校ノ多キ殆
ト最モ開化シタル國民ニモ讓ルコト無シ、且ツ其等級モ善ク整頓シ、小ニ
シテハ僻陬ノ邑校ヨリ、大ニシテハ帝都ノ翰林院ニ至ルマデ、歴々完備
セリ。儲テ斯ク數ヶ所ノ學校ニ於テハ如何ナル事ヲ教フルヤト云フ
ニ、其孰レニ於テモ必ズ上世ノ學者ノ古典ヲ記憶セシムル事ノミニ限
レリ。此一學科ノ中ニテ多クノ科級ヲ立テ、學校ノ等級ニ應ジテ之ヲ
排列セリ、即チ邑校ニ於テハ近易ニシテ普通ナル書冊ヲ講習セシメ、翰
林院ニ於テハ孔子及ヒ其他ノ最モ有名ナル教法家按スルニ儒學ヲ指
フイ及ヒ道德家ノ著述ニ涉獵セシム。又生徒ヲ試業スルニモ、單ニ生徒
聖人君子ノ言語ヲ記シタル字句ヲ其儘ニ暗誦スルノ忠誠ナルト否ト
ヲ檢査スルノミヲ以テ目的ト爲セリ、而シテ生徒ヲシテ其字句ノ含意

タル教理ノ一端ヲダモ理會セシムルガ如キハ教師ノ敢テ勞スル所ニ非ザルナリ。又先哲ノ語ヲ批評スルコトハ、支那人ノ全ク知ラザル所タリ、何トナレバ疑難ノ罪タル、背教ノ罪ニ等シトスレバナリ。試業咸完キテ得テ、及第スル者ハ、賞スルニ官職ヲ以テス、凡ソ少年ヲ勵マシテ學ニ勉メシムルノ誘因ト爲ルベキ者ハ、悉ク之ヲ採用セリ。要之支那ニ在テ人ノ推舉ヲ被ラント欲セバ、學校ヲ經テ此ニ至ルノ外ニ其路無キナリ。凡ソ學就リタル少年ノ、賞典ヲ受クルコトノ直接ニシテ疾速ナルハ、他國ニ其比ヲ見ザル所ナリ。 儲テ斯クノ如キ支那教育統系ノ成績ハ如何ナリヤト云フニ、其結果ハ更乘ニ歴然タリ。言語字句ヲ記憶シ、頑冥ニ教權ヲ墨守スルノ法ヲ力行スルコト數百年ノ久シキニ涉レド、此法ノ教育ノ基本トシテ不十全ナルコト明々白々タリ、何トナレバ、支那人ハ大抵ノ學業技術ニ關シテ世界

中最モ早ク進歩シタル人民ナリト雖モ、爾來一千年ノ間開明ノ進行中止シ、或ハ却テ退歩シタルノ兆アレバナリ。 此國ニ於テ明智ヲ傳播センガ爲メニ施シタル計策ハ、却テ最モ甚シク進歩ヲ障止スル者ナリ、故ニ此教育法ヲ改メザルモハ世界中人口最モ稠密ナル帝國タリナガラ、永ク半野蠻ノ状態ヲ脱スル無カントス。 無垢ノ統系 || 歐州中古ノ寺僧 || 歐州中古ニ設立シタル學校ニ於テハ教育ノ業ヲ無垢ノ手ニ委テタリ、是ヲ以テ教法上ノ目的ヲ達スルニ最モ善ク適シタル類ノ文章及ヒ規則ヲ記憶セシムルコトノミヲ以テ授業ノ常目ト爲シタリ。「クリド」名「ビータル」ノスタル名及ヒ羅匈語ノ唱歌ヲ(其意味ニ關シテハ少シモ理會スル所無キニモ拘ラズ)記憶ニ委スルヲ以テ、學校事業中ノ主要ノ部分ニ置キタリ。無垢ニシテ教師タル輩ガ、自家ノ見解及ヒ教權ヲ直接ニ贊成セザリシ類ノ知識ヲ排斥ス

ルニ用非タル力ハ、之ヲ賛成スル類ノ知識ヲ布揚スルニ用非タル力ト
平等スト謂ツヘシ。中古ノ學校ハ人民ノ無學文盲ナルヲ制止スル
ニ於テ殆ト全ク何ノ功モ有ラザリキ。理學ハ教法ニ背反スル者トシ
テ「教會」ノ禁止スル所ト爲リタリ、ハラム氏史州中古著者曰ク「一言以テ數世
紀ノ間ノ無學ノ有様ヲ名狀セバ、貴賤ノ差別ナク己ガ姓名ヲ記スル
ヲ知ル者ハ俗間ニ稀ナリキ」ト。無垢ノ教育統系モ支那統系ト同様ニ、
教權ヲ墨守セシコトヲ催迫シタリ、是ヲ以テ人類ノ進歩ヲ害スルニ於テ
モ東西殆ト一轍ニ出テ、凡ソ一千年ノ間、歐洲ノ人智ハ奴隸ノ有様ニ停
滯シタリ、而シテ現時ノ開化ノ最モ彰著ナル形情ナリトスル夫ノ民庶
ノ修長ト云フコトハ轉覆及ヒ革命ヲ四方ニ起シテ無垢制度ノ束縛ヲ全
ク殄滅シ得タルノ後ニ至リ始メテ見ルコトヲ得タルモノナリ。
然リト雖モ舊來ノ教育ノ有害ナル餘炎ハ、其根據セシ所ノ統系既ニ盡

滅ニ歸セシ後モ、尙ホ久シク留存シタリ。就中記憶法ノ如キハ、只タ之
ヲ運用スル所ノ者即チ學問法ヲ變更シタルノミニシテ、依然トシテ行ハ
レ、又教權ニ依據スルコトモ盛ニシテ、只タ其種類ヲ改メタルマデナリキ。
英國ノ學校 || 英國ノ公立學校ニ於テハ從來夫ノ記憶ノ法、甚タ強
剛ナル根據ヲ占メ、今ニ至リテモ敢テ改メス。古典語學ヲ以テ教育ノ
基本ト爲シ、文典ヲ以テ之ヲ教授シタリ。生徒ニ迫テ殆ト無數ノ格言、
規則、變例等ヲ記憶ニ委セシメ、之ヲ強ヒテ文典及ヒ字典ノ教權ニ少シ
モ疑議セズ服從セシメタリ。且ツ時々此課業ノ純音ヲ破ラシカ爲メ
ニ生徒ヲシテ羅句語ノ詩ヲ作ラシメタリ、然レモ其詩ハ只タ音調ノ平
滑ナラン事ヲ旨トシ、分量ニ關シテ言辭ヲ精練スルノミ、言辭ヲ以テ現
ハス所ノ思想ノ如何ニハ毫モ意ヲ留メズ、甚シキハ必スシモ言辭ヲシ
テ正シキ句節ヲ作サシムルニ及ハスト做シタリ。

英國ノ教育ニ於テ斯ノ無靈ナル方法ノ流行スルハ、公立學校中ニ所謂
文典學校ナル者ノ多キニテモ知ルヘシ。習慣并ニ國法ニ於テ文典學
校ト云フ名稱ヲ以テ、希臘、羅甸ノ二語ノ限リテ教授スル學校ヲ指ス者
トセリ、而シテ宗教改革ノ比マデハ、舉國ノ學校ハ皆文典學校タリシニ
テ、今日ニ至リテモ有資即チ公立ノ學校ノ種類色々アル中ニテ文典學
校其最モ主要ナル地位ニ居レリ。

◎辨護ノ基據 米國ノ學校ニ於テモ記憶ヲ務ムルノ法尙ホ未タ
全ク跡ヲ絶タズ、教師生徒ヲシテ教科書ノ本文ノ語字ヲ復誦セシメリ。
其語字ノ含蓄スル所タル思想ハ、之ヲ會得ストモ、セストモ可ナリ、本文
ハ是非トモ記憶セザル可カラストセリ。斯ル教授法ヲ辯護スル論ノ
基據トスル所ハ左ノ如シ。

(一)此法ハ課業ノ上ニ注意ヲ固着セシメ、從テ注意スルノ氣習ヲ養成ス。
(二)此法ハ記憶力ヲ教練ス。(三)此法ハ教師ヲシテ生徒勉強ヲ忠實ニセ
シヤ否ヤヲ判斷スルヲ得シム。(四)此法ハ句節ノ構造并ニ言詞ノ用
方ニ關シ語學上甚タ貴重スヘキ演習ヲ作サシム。(五)始メテ暗記スル
トキハ生徒其事目ノ理會ニ絶エザルモ、之ヲ記憶ニ藏蓄シオキテ心意
達育シテ後之ヲ領會スルニ至レル時ノ用ニ供スルニ如カズ。余輩ハ
左ニ於テ此等ノ理由ヲ一々詳細ニ稽查セントス。

注意確保ノ事 本元注意ハ必ズイッモ之ヲ思想ノ上ニ着セシム
ヘキ者ナルニ、此法ニ於テハ之ヲ言語ノ上ニ着セシメテ、思想ハ心意ニ
入トル能入ラズ能只々自然ノ勢ニ任セリ。然レ能言語ニハ心意ノ成
長ヲ資クルノ滋養質アルヲ無シ。故ニ斯ク實質ノ代ヘテ糠粃ヲ用井
ルトキハ心意饑餓矮縮シ後ニ至テ成長セシメントストモ得ヘカラザ

ルニ至ル。然ルキハ只タ區々ノ卑劣ナル事ノミニ心ヲ用非ルヲ常ト成リテ、尊大ナル思想ヲ運轉スルノ能力ヲ失フヘシ。

注意教練ノ事 〓 嚮ニ把住ヲ修練スルニ最モ善ク適シタル法ハ各一新知觀念ヲシテ之ト同類ニ属スル舊知觀念ト聯合セシムルニ在ル事ヲ述ヘタリ、即チ單ニ新舊二者ノ關係ノミニ依テ之ヲ把住シ、以テ若シ此聯合無カリセバ必ス輕少ナラザルベキ心意ノ煩勞ヲ大ニ減省スルノ法コレナリ、然ルニ件ノ教育法ハ專斷、記憶、ヲ修練セントスルノ趨向アリ。此能力タル、之ヲ無益ニ發達セシムルトキハ、爲メニ多量ノ活力ヲ浪費シ、無關係ニシテ往々無實用ナル事物ヲ以テ心裏ニ鬱積セシメ、終ニハ觀念聯合ニ因リ把住力ヲ修練シテ一層高尙且ツ善良ナラシムルノ路ヲ全ク蔽塞スルニ至ルベシ。

勉強檢察ノ事 〓 真正ノ勉強ヲ爲ストキハ、實物ニ依ルト書籍ニ依

ルトニ論無ク、心意之ニ因テ實有知識ヲ得ルモノナリ、サレバ勉強ヲ判斷スル所以ノ檢成ノ真正ナル者ト云ヘバ、實有知識ヲ得タルト否トニ在ラザルヲ得ズ。只タ徒ニ書籍ノ上ノ言語ヲ復誦セシムルノミニテハ、實有ノ勉強ヲ判斷スル所以ノ標準ノ、依據スルニ足ル者ヲ爲サズ。此法ヤ、或ハ言語ヲ記憶スルノ忠實ナルト否トヲ決スルニ足ラシ、然レハ言語ノ表示スル所タル思想ヲ解セシト否トノ事ニ至テハ、生徒ヲシテ誠ニ自分ノ言語ヲ以テ十分ニ修述セシムルニ非ズンバ、其實ヲ知ルヲ難カルベシ。

言語修練ノ事 〓 眞ニ言語ノ熟練ト稱スヘキ者ハ正當ニ且ツ平易ニ言語ヲ用非ルノ才能コレナリ、此才能ハ獨リ熟練ヨリ來タルノ外無キモノトス。他人ノ構造ニ係ル言句ヲ記憶ニ委スルヲ如何バカリ多キニ至ルモ、生徒自ラ言句ヲ構造スルノ能力ヲ得ルノ介助ト成ルヲ甚

タ僅少ナルヘシ。豈ニ只タ然ルノミナランヤ、却テ書籍ニ依頼シテ自己ノ思想ヲ表示スル語法ヲ求ムルノ氣習ヲ生シ終ニハ自ラ言語ヲ操作スルコトヲ得ザルニ至ルヘシ、是レ猶ホ常ニ倚杖ニ依頼シテ歩行スル人ハ自己ノ脚足ヲ自在ニ且ツ活潑ニ使用スルノ能力ヲ失フガ如クナルモノナリ。

後日實用ノ事 || 生徒自ラ理會シ、或ハ明智以テ消化スルヲ得サル類ノ知識ヲ其心意ニ充實シオキ、以テ後日之ヲ理會スルニ至リシ時ノ用ニ備フルニ如カズトノ論ハ、其荒唐無稽ナルヲ、恰モ豫メ食物ヲ幼兒ノ胃臟ニ填充シオキ、以テ其成長スルニ及テ消化セシムルノ用ニ供ス可シトノ論ニ異ナラザルナリ。又他ノ一點ヨリシテ見ルモ此論ノ不可ナルヲ昭々タリ。夫レ記憶スル所ノ言辭ハ知識ニ非ズ、其表示スル所ノ思想ヲ充分理會シ得タル上ニテ始メテ變シテ知識ト成ル可キ

モノタリ。將來ニ至リ其事目ヲ充分了解セントスル事ノ上ヨリ言フモ、言辭ヲ記憶スルヲハ介助ト成ラズシテ、却テ妨礙ト成ル可シ、何トナレバ注意ヲ事理ニ著セシメズシテ、却テ外形ノ上ニ著セシムルヲトナレバナリ。

是レニ由テ之ヲ觀レハ、本文ヲ記憶ニ委スルノ法ハ、如何ナル哲理ノ上ヨリ言フモ、全ク立ツ能ハザル者ナルヲ昭々タリ、故ニ其現ニ國中諸方ノ學校ニ於テ行ハル、ハ、始メ惡法ヲ生スルノ原因ト成リシ事情ノ既ニ消滅セシ後マテモ、獨リ惡法ノミ残り存スルノ例タルナリ。

◎書籍ノ講究 || 歐洲ニ於テ印刷術ノ發明アリ、尋テ文辭復古ノ事アルヤ、舊來僅々數人ノ專有スル所タリシ書籍ハ、傳シテ普ク公衆ノ使用スル所ト爲リヌ。其書籍ニハ往昔ヨリ當時ニ至ルマテノ間ニ出テ

シ一切ノ知識ヲ載セタルニテ、世人ノ此知識ヲ求索スルコト固ヨリ切ナルカ上ニ、久シク之ヲ有スルコト得サリシヲ以テ、一層切ニ之ヲ求索シタリ。斯ル次第ナリシカバ、日チ追テ從前ノ如キ學問ノ尊威ニ對スル反動ハ益、激シク成リ、終ニ極端ニ走リテ、書籍ヲ欽崇スルコト恰モ神ニ於ケルカ如キアルニ至リヌ、其之ヲ以テ直ニ教育ノ基本ト爲セシモ亦自然ノ勢ナラスヤ。

如何力是レ學者タルヤニ關スル觀念 || 斯クノ如キ形勢アルヤ、直チニ又學者即チ教育ヲ受ケタル人ト云ヘハ、古代ノ事物ニ關シ圓滿充足ノ知識ヲ有スル人は是レナリ、之ニ比スレハ、自身ノ諸能力ヲ自在ニ使用スルコトヲ得、一切人世ノ職務ヲ完了スルノ才幹ヲ有スル人ノ如キハ、有學者ト謂フニ足ラストノ論旨大ニ行ハル、コト、成リヌ。世俗ノ目ヨリ視ルトキハ、古代ノ文章家ノ章句又ハ詩篇ヲ暗誦スルコトヲ得或ハホーメル

希臘第一詩人ホレー | 羅馬第一詩人ホレーノ原文ヲ復誦スルコトヲ得シ者コソ大學者ナリシニテ、其人果シテスコットノ小説ニ見エタルドミニ、サムブソン名人ノ如ク實務ニ迂遠ナリシモ敢テ怪シトセザリシナリ。之ニ反シテ、百万人ノ勞苦ヲ節約スルニ足ルノ機械ヲ創作スルノ才智アリ、或ハ「國家」ノ事務ヲ料理シテ安寧ヲ維持シ、民庶ノ權利ヲ保護シ、全國ノ開明ヲ進ムルノ力量アル人ト雖モ、羅甸語ノ詩章ヲ作テ誦讀シ或ハ希臘語ノ語類學ノ不分明ナル點ヲ判斷スルコトヲ得サルトキハ、稱シテ學者ト謂フベカラザリシナリ。

書物ノ欽崇 || 斯ク書物ヲ欽崇スルコトハ、今日ニ至ルマテモ繼續シテ、之カ爲メニ此國米ノ教育統系ノ全体ヲ染濁セシコト輕少ナラザルナリ。其證據ヲ言ヘバ、國中諸方ノ學校ニ於テ、教科書ヲ復誦セシムル事ヲ以テ課業中ノ最モ重大ナル部分ニ置カザル無キコトコレナリ。則チ

生徒果シテ算術ヲ理會シ得タルヤ否ヤヲ以テ有學無學ノ差別トセズ、
スミス氏又ハジョチンス氏ノ算術書ヲ習ヒ了リタルヤ否ヤヲ以テ其差
別トセリ。之ニ授クル日課ノ如キモ、之ヲ以テ攻究シ熟達スヘキ一種
ノ限定ナル事目ナリトハセズシテ、記憶シテ復誦スヘキ若干ノ紙面ヲ
以テ成ル者トスルナリ、而シテ試業ニ際シテモ、生徒其事理ヲ證明スル
ヲ得ルト否トニ由ラズシテ大抵イツモ教科書ノ著者ノ言辭ヲ暗誦
スル能力ノ有無ニ據テ及第落第ヲ決スルナリ。

書籍ノ妄用ヨリ生スル弊害 書籍ノ妄用ヨリ生スル第一ノ弊害
ハ、斯クノ如キ習學法ノ基本トスル所、生徒自身ノ實驗ニ在ラサルニ因
リ、生徒ニ賦附スルニ實有知識ヲ以テセズシテ、似有知識ヲ以テスルニ
至ルユエ、一時ハ求智ノ情ヲ満足セシムルニ足ルヘキモ、到底心意ノ發
育ヲ助クル甚タ輕少ナルヘキ事コレナリ。即チ斯ル方法ニ因テ得タ

ル知識ハ、之ヲ理會スルヨリモ寧ロ單ニ領知スルニ過キズ、且ツ絶エズ
言語ノミヲ承納シテ、其言語ノ表現スル所タル思想ニ著意セザルノ氣
習チ生セシムルノ勢アリ。

書籍ニ因テ得タル知識ハ、其最モ善良ナル者ト雖モ他人ノ手ニ出テシ
者タルヲ免レズ、而シテ完全ナル教育ニハ缺ク可カラサル者タルヤ必
セリト雖モ、猶ホ且ツ我が手ニ於テ現實ニ討究ヲ盡シテ同一ノ材料ヲ
得ルトキハ、迥ニ深厚ナル印象ヲ生スルノミナラズ、又自ラ稽查チ一層
親切ニシ、知識チ一層深遠ナラシムルニ至ルヘキナリ。
全ク書籍ノミニ倚依スルトキハ、少シモ疑議セス教權ヲ承納スルノ習
慣チ生ス、此習慣ヤ、自倚心ノ修練ヲ害シ、心意ノ進歩ヲ碍クル最モ甚
シキモノナリ。心意ノ最初ノ奮勵ハ觀察スルニ在リ、其次ハ理會スル
ニ在リ。理會ノ作用ヲ完ウセンガ爲メニハ、一步一步精細ナル稽查ト

比較トテ施シテ傳次進マンヲ要スルモノナリ、然ルニ夫ノ教科書暗記ノ法ハ此作用ヲ助ケザルノミナラズ、却テ之ヲ毒害スルモノナルヲ昭々タリ。

教科書ノ所止 || 余輩ハ嚮ニ兒童ノ初發ノ知識ハ諸覺官ヲ經テ物類ヨリ來ル者ナルヲ述ベタリ、其未ダ學校ニ入ラザル前ニモ既ニ外界ノ事物ヨリ多量ノ知識ヲ得ルモノタルナリ。學校ニ入ルル、初メ之ニ授クル事業ハ、觀察力ヲ養成シ統紀ヲ整シテ觀察ノ結果ヲ叙列スルノ目的ニ出ツルヲ善シトス。斯クノ如クニシテ野外及ヒ市街ニ在ル物体、及ヒ其他日々目撃スル所ノ現象ヲ殆ト皆盡クシタルトキハ則チ書籍ニ寄ルヘシ、而シテ書籍ニ依テ授クル所モ、成ル可ク順チ進テ既ニ知ル所ノ物ヨリ、未タ知ラザル所ノ物ニ進ムヲ善シトスヘシ。且ツ課目ノ順序ヲ制定スルニ當リ、成ル可ク書籍上ノ知識ヲシテ自己

ノ實驗ヨリ得タル所ヲ直接ニ繼續シナガラ、之ヲ増殖スルノ實アル者タラシメノヲ務ム可シ、書籍ハ此クノ如キ性質ヲ缺クヲ益、大ナルニ從ヒ、最高度ノ用益ニ達シ得サルヲ益、大ナル者ナリ。

教科書ノ必用

|| 教育ノ有様現今ノ如クナルキハ、教科書ハ缺ク可

カラサル者ナリ。今其必要ナル所以ヲ擧クレバ、第一ニ知識ノ藏庫トシテ入用ナリ。第二ニ經驗ニ因テ得ヘキ知識ヲ補修スル者トシテ入用ナリ。第三ニ諸科討究ノ範圍ニ屬スル知識ヲ排列シ、論理上ノ關係ニ準シテ間斷無キ連列ト作シテ之ヲ表示スルニ要用ナリ。第四ニ各級ノ生徒ヲ團結スルノ基本ヲ爲スニ要用ナリ。第五ニ心意ヲ引導シテ莫大ナル未知ノ境界ヲ伺ハシメ、之ニ填充スルニ直チニ觀察ニ依テ得ルヲ難キ類ノ知識ヲ以テスルニ要用ナリ。第六ニ世上多ク見ル處淺ニシテ不才ナル教師者流ヲシテ一定ノ事業ヲ年々歳々同シ様ニ旋

轉スルコトヲ得シムルノ杖トスルニ要用ナリ。

教科書ノ正當用方

サレバ教科書ハ之ヲ方策トシテ使用スルハ善シ、目的トシテ使用スルハ惡シ。教科書ハ只タ學校ニ於テ教育スル爲メニ必要ナル知識ヲ載スルノ器トシテ價值アルノミ、其外ニ全ク價値無キ者ナリ。書籍ヲ講究スル真正ノ方法ハ、本文ヲ經テ其表示スル所ノ思想ヲ領會スルニ在リ、而シテ此目的ヲ完了スルコト益、大ナルニ比例シテ、其講究ノ價格益、大ナルナリ。書籍ニ依テ得タル事實及ヒ原理モ、精密ニ之ヲ稽查シ、親切ニ之ヲ究察スルノ必要ナルコト、少シモ「造化」ヲ觀察シテ得タル者ニ異ナル無シ。此精密ナル稽查及ヒ親切ナル究察ヨリシテ生スル氣習ハ、一切ノ教育ノ目的中ノ最モ重大ナル者ノ一ニ居レリ。

教科書ノ要求増大スル事

教育ノ事業正當ナル方向ニ於テ進ム

益々大ナルニ從ヒ、諸方ノ學校ニ於テ書籍ヲ要求スルノ數ハ減少セシメテ却テ増加スベキコト疑ヲ容レザル所ナリ。種々ノ學科ニ於テ定規ノ日課ニ用弁ヘキ者ノ外ニ、又誰レニテモ志厚キ生徒ヲシテ、其目下留心スル所ノ種々ノ事目ニ關シテ、人類ノ思想ノ當時ノ形情ヲ精密ニ知ルノ機會ヲ得シメ、ガ爲メ、卷秩稍、大ニシテ一層完全ナル書籍ヲ要求スルニ至ルヘシ。大全辭典ト、百般知識ノ完全ナル節府ノ類トシテ、各小學校ニ缺ク可カラザル要具ノ中ニ置クノ日ハ、遠カラズシテ至ル可キナリ。

◎實物ノ研究

余輩ノ嚮ニ心意作用ノ本性ヲ討究セントセシニ當リ發明スルコトヲ得タルモノアルハ何ゾヤ、曰ク明智ヲ以テスル實物ノ研究コソ、自餘百種ノ知識ノ先ニ出ツベキ者ナレト云フ事コレナリ。

此類ノ研究ノ心意發育ニ對スル關係ハ、余輩既ニ之ヲ述ヘ盡クシタリ、故ニ此處ニ於テハ、只タ斯ル研究法ニ屬スル便益ノ簡短ナル要領ヲ掲ゴトスルノミ。

知覺ノ修練 凡ソ知覺スルノ能力ヲ修練スルノ實効アルヲ確然タル方法トイヘバ、自然ノ實物ヲ研究スル事ノ右ニ出ツベキ者無シトス。夫レ自然ノ實物ハ單純ナルアリ、又複雜ナルアリテ、其差等、其種類、殆ト無限ニ數多ナリ。是ヲ以テ、之ヲ研究スルハ、無限ニ廣大ナル範圍内ニ於テ、知覺ノ能力ヲ演習スルニ外ナラズ、且ツ之ガ活動ヲ振起スルニ正當ニ適當シタル激因ヲ得ベキナリ。

經驗ノ基本 實物及ヒ自然ノ現象ヲ觀察スルハ之ニ因テ現實ノ經驗ニ出ツル事實ヲ以テ成ル知識ノ基本ヲ得ルニ至ルベシ、此基本ハ生徒後ニ至リ書籍ニ就テ講究スル所ヲ理會スル爲メ必要ナル者ト

ス、例ヘバ初メ体形ノ元素ヲ觀察スルハ、後ニ至リ甚タ繁雜ナル体形ノ結合ニ關スル名狀ヲ理會スルノ基本ト成リ、初メ土地ノ高低、川河ノ流行、天氣ノ變化ニ關スル事實ヲ觀察スルハ、後ニ至リ其未タ曾テ旅行セザル國土ノ自然地誌及ヒ氣候ヲ理會スルノ基本ト成ルナリ。若シ初發ノ經驗無カリツランニハ、斯ル地邦ノ紀事イカバカリ、明瞭快活ナリトシ、生徒ニ對シテハ意味無キ言辭ノ聚合タルニ過ギザル可キナリ。

思想ノ材料 又知識ノ上ヨリ言フトキハ、實物ノ研究ハ心意ニ資給スルニ、思想ヲ施シ用井可キ材料ヲ以テスル者タリ。此研究ハ一切將來ノ得識ノ爲メニ堅牢ナル基址ヲ立ツル者ニシテ、斯ル研究ヲ推シテ適度ノ廣濶ニ達セシムルトキハ、此基址モ爲メニ廣濶ニ進ミテ、各般ノ用ニ十分適當ナルニ至ル可シ。

◎實驗及ビ勞作 —— 舊式ノ教育ニ於テハ、勞作實業ヲ以テ全ク其主旨ニ背反スル者ト爲シタリ、而シテ數世紀ノ久シキニ涉レル經驗ヲ累テタル上ニテ、始メテ教育ノ一部ハ人ヲシテ其日々ノ職務ヲ執ルニ適シタル才能ヲ備ヘシムルニ在リトノ觀念ヲ抱クニ至リ、漸ク現世紀ノ初メノ頃ヨリシテ、學校ニ於テ職工社會ノ子弟ノ教練ニ備フル爲メ特別ノ條規ヲ立ツルトナリタルナリ。

工藝學校 —— 國家ノ教育統系ノ一部トシテ勞作ヲ教授スルノ制度無カル可カラズトノ事ハ、諸國政府ノ之ヲ認識スル甚タ遲々トシテ、恰モ嫌忌スル所アルガ如クナリシト雖モ遂ニ今日ニ在テハ、開明ノ域ニ達シタルノ國ニシテ、多少之ヲ許容セザル者殆ト無キニ至レリ。概テテ、フルレンベング氏ノ計畫ニ基ツキテ立テタル農學校ハ諸邦ニ於テ往々見ル所ナリ、而シテ日耳曼ニ於テハ直チニ小學校ニ次テ生徒ヲ教

授スベキ商法學校及ヒ稍高尙ナル科級ニ屬スル職工學校ヲ扶持スル爲メニ寛大ナル法制アリ。佛蘭西ニ於テモ近比ニ至リ、職工教育ノ一著シキ獎勵ヲ得タリ。

有學工夫優等ナル事 —— 西曆一千八百六十七年巴里ノ萬國博覽會ニ於テ各國ノ製造品ヲ集メテ比較シタル事アリ。然ルニ英吉利ノ職工ハ、先代ヨリ遺傳シタル才能ニ於テモ、人々自己ノ經驗ニ於テモ、他國ノ職工ノ得テ及ブ所ニ非サリシニモ抱ラズ、殆ト各科ノ工業ニ於テ、匠圖ノ上ヨリ言フモ、機巧ノ上ヨリ言フモ、佛蘭西及ヒ日耳曼ノ職工コソ英吉利ノ職工ノ上ニ出デシヲ見タリ。此結果ハ教育ヲ受ケタル職工ノ、無學ナル職工ニ勝レルヲ憑証シタリ、是ニ於テ英吉利ノ人民ハ之ニ因テ大ニ奮發シテ、國中製造ニ從事スル工夫職人ヲ益スル爲メノ學校ヲ盛ニ設クルト成リヌ。此結果ハ亦英吉利ノミナラズ他ノ諸國

ニ於テモ大ニ職工學校ヲ擴張スルニ至ラシムルノ功アリタリ。

幼稚園ノ勞作 || 嚮ニ幼稚園ノ教育法ヲ論スルトキ百種ノ身體活

動ハ之ヲ傳シテ以テ幼稚教育ノ用ニ供シ得ベキヲ述ベタリ、且ツ此等ノ活動ハ、自發ノ遊戲ヲ以テ起リ、其レヨリ覺エズ知ラズ進テ、有益ノ勞作實業ニ移ル様ニ爲シ得ベキ者ナル事ヲ述ベタリ。此勞作ハ、一方ニ於テハ無靈ノ精巧即チ智力ヲ要セス手ノ精巧ヲ來タシ、又一方ニ於テハ、智心發育ノ方策ト成リ、一舉ニシテ兩得アル者ナリ。

次ノ一步ノ要求 || サレバ教育事業ノ上ニ於テ此次ニ進ミ占ムベ

キ一步ト云ヘバ、一方ニ於テハ幼稚園ノ原理ヲ包含シナガラ、又一方ニ於テハ、今日ニ在テハ、獨リ職工學校ニ於テノミ收得スルヲ得ベキ精巧ヲモ生スルノ効カアル學科ノ全途ヲ編成シテ小學校及ヒ高等學校ニ於テ授クルニ適シタル者ナラシムルヲ是レナリ、今日ノ如ク幼稚園ト職工學校トヲ別

置スルハ尙ホ不便多シト也 李漏西ノ師範學校ノ最モ近キ比ノ改定制規ニ於テハ、此原理ヲ半バ許容シテ工業ノ二科(即チ園藝及ヒ養蠶)ヲ以テ定規授業ノ一部分トシタリ。

勞作若シクハ工業上ノ技術ヲ學校ノ課程ニ加フル法ノ如何ニ關スル疑問ハ、マサチセツトノ「工藝教育所」ニ於テ魯西亞ノ工業教育ノ統系ニ基ツキテ施シタル試驗ニ因テ半バ之ヲ答釋スルヲ得タリ。即チ此法ニ於テハ、木及ヒ鏡ヲ以テスル勞作ヲ分解シ其各部門ヲ適宜ニ叙列シテ各級ニ於テ教授スルヲ、恰モ自餘尋常ノ諸學科ヲ教授スルガ如クニスルナリ。此教育ニ於テハ、誠ニ十分ナル成功ヲ見タリ、而シテ通常ノ小學校ニ於テモ、此法ノ大体ヲ採リテ出費少ナキ様ニ施行スルヲ難キニ非ザル可シ。

手腦共練 || 斯ク手ノ教練ト腦ノ修練トヲ同時一齊ニ施スヨリシ

ヲ生ズル便益ヲ簡短ニ枚擧スレバ、左ノ如シ。

第一。|| 手以テ實物ニ觸ル、トキハ大ニ熱心ヲ喚起シ、印象ヲシテ深厚ナラシム。

第二。|| 勞作ニ必要ナル材料ヲ手ニ取テ扱フ事ハ、自ラ生徒ヲ誘テ物ノ形質并ニ關係ニ就キ一層親切ナル討究ヲ盡サシメ、其泛濫ナル總念ヲ轉シテ、實確ナル知識ト爲スノ効アリ。又單ニ言語ノミヲ講究スルヨリシテ生スル浮薄皮淺ナル觀念ヲ校正シ、狹隘ナル前提ニ依テ斷定ヲ下タス_トヲ制止ス。

第三。|| 此法ハ筋骨ヲ教練シテ、即坐ニ意志ノ指令ニ應セシメ、且ツ器具ヲ用非材料ヲ扱フノ機巧ヲ備ヘシム。斯クシテ得タル教練及ヒ機巧ハ直接ニ之ヲ其熟練ヲ生スル所以ノ者タリシ勞作ノ上ニ適用スル_トヲ得ベク、或ハ間接ニ殆ト自餘一切ノ手業_ヲノ上ニ適用ス

ル_トヲモ得ベシ。

第四。|| 機巧ヲ得ルニ從テハ、智力モ之カ爲メニ衝動ヲ受ケ、其衝動マタ筋骨ノ上ニ反動シテ、機巧ノ收得ヲシテ益、疾速ナラシム。斯クノ如クニシテ筋骨教練ト智心教育ト互ニ助勢スルナリ。此二科ノ間ニ正當ノ權衡ヲ保維シ其孰レヲモ過度ニスル_ト無キトキハ双方ヲ同時ニ收得スル_トヲ得ベク、且ツ其收得ノ爲メニ費ヤス光陰ハ、二科ヲ別離シテ、其一ノミヲ收得スルニ要ス可キ光陰ヨリモ少ナカルベシ。

第五。|| 材料ヲ轉シテ機械、用具、裝飾等ト爲スノ機巧ヲ一旦手ニ備ルトキハ、死ニ至ルマデ盡キセサル快樂ノ本源ト成ルベク、之ニ因テ怠惰若シクハ遊蕩ニ費ヤスベカリシ光陰ヲ轉シテ愉快且ツ有益ナル職業ニ供スル_トヲ得ベシ。

ベキモノトス、而シテ斯ル知識ノ大半ハ書籍ニ由テ之ヲ得ザルベカス
學校ニ於テ書籍ヲ排斥スルハ、恰モ開明ノ運営及ヒ結果ヲ忽棄スルニ
異ナラザルナリ。書籍ハ管ニ學事隆盛ニ向フニ從ヒ之ヲ使用セザル
ベカラザルノミナラス、却テ之ヲ現時ニ於テヨリモ盛大ニ且ツ普通ニ
使用スベキナリ、而シテ唯タ此事ニ關シテ施行セシテ要スル改革ト
イヘハ、之ニ載スル所ヨリモ多クノ知識ヲ書籍ニ依テ得ントシ、或ハ實
物ヲ研究スルニ出ツル經驗ニ依テスルトノ外無キ教育上ノ事業ヲ書
籍ニ依テセントスル等ノ事無カラシムルニ在リ。
正當ナル記憶力ノ修練ハ單ニ願ハシキヲタルノミナラズ、又最モ缺ク
可カラザル者ナリ。心意ニシテ果シテ收得スル所ノ知識ヲ把住スル
ノ能力アルニ非サリセハ、心意發育セシテ到底望ム可カラズ。實物ノ
研究ハ此能力ヲ練磨スル爲メニ十分ナル範圍ヲ開クベシ、而シテ此研

究ヲ補修スルニ手業ヲ以テスルトキハ、其記憶ニ刊銘スル印象ヲシテ
一層深厚ナラシメ、從テ益、妄却シ難カラシムベシ。『自然』中ニ在ル種々
無量ノ事物ノ相關係スル次第ハ、聯合記憶觀念聯合ノ理云ノ最モ完全
ナル發育ノ基本ヲ爲スベシ、而シテ若シ此上ニモ尙ホ單ニ言語ヲミテ
記憶スルノ演習緊要ナリト想料スルトキハ、雅美ナル言句ヲ以テ高尙
ナル情操及ヒ眞理ヲ修述シタル詩歌、若クハ詩歌ニ讓ラサル文章ヲ記
憶ニ付スルノ法ヲ取りテ可ナリ。



明治十七年十二月 五日版權免許
 同十 八年三月 上卷出版
 同 年十月廿九日 正改再版御届
 同 年十一月 再 版

定價金壹圓三拾錢

出譯
版註
人者

大坂府平民

有賀長雄

東京麹町區三番町
六十七番地寄留

發
兌

東京府平民

牧野善兵衛

東京日本橋區
通四丁目七番地

氏牧
印聖

252
190

終